

陳 情 文 書 表

(都市計画局)

受理番号	4378	受理年月日	令和5年2月16日
件名	北山エリア整備基本計画の見直し等		
要旨	<p>私たち京都市左京区・北区の住民は、静かで学術文化の薫るこの地域を愛し、長らくここに住んできた。</p> <p>ところが、2020年12月に京都府は北山エリア整備基本計画を発表し、府立植物園・府立大学・旧総合資料館跡地などの文教住宅地区を大きく改変しようとしている。その開発計画では、この地域を躍動する祝祭空間にし、府立植物園や府立大学内外に商業的な施設を造ることが書かれている。植物園の東西南北の境界をなくし、人々が自由に行き来できるようにするなどの変更も企てられ、植物園というよりも、もはや公園になろうとしている。植物園は一定の境界の中に外界から遮断されて、植物が主体となって、植物を展示し、人間は植物から自然を学び、静かに憩う場所である。人間のにぎわい、イベント、もうけのために、100年近くも守り育ててきた府民の宝である植物園と植物たちを犠牲にすることはできない。</p> <p>また、2022年1月（3月公表）のKPMGの北山エリア整備事業手法等検討業務報告書では、その開発計画の具体化が明示されている。特に植物園のすぐ南側の府立大学キャンパスの真ん中に1万人規模の商業アーリーナの建設が企図されており、この開発計画の無謀さを示している。</p> <p>このような開発計画が進めば、私たちの静かで緑豊かで、文化学術の薫りがする北山エリアが、10年間近く開発工事やその作業車の騒音・渋滞、粉じんによる環境破壊にさらされることは明らかである。私たちは、府立植物園を守り、府立大学を守り、左京区・北区の生活環境を守るために、これらの開発計画を一旦止めて見直すことを京都府並びに京都市に一昨年から要請してきた。</p> <p>これらの声は、2021年11月に持たれた京都府による説明会（約500名の参加者）でも発言者のうちほとんどの参加者が計画の見直し・撤回を主張されたことに表れている。また、開発計画の見直しを求める署名は、この2月12日現在で、ついに総計15万3,000筆に達している。</p> <p>ところが、住民の生活環境を守ることが主な役割の基礎自治体である京都市は、2021年4月に突然、京都市都市計画マスタープラン（地域まちづくり構想編）に北山文化・交流拠点地区を追記し、京都府の整備基本計画のイメージ図をそっくり掲載し、それを追認している。この計画の追記は、私たち北山エリアの地域住民には何の説明もなく、多くの住民の声を無視したものとなっている。</p> <p>ついては、以下のことを切に願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 京都市が京都府にこの北山エリア整備基本計画を見直すことを進言すること。</li> <li>2 京都市の都市計画マスタープランから北山文化・交流拠点地区を削除すること。</li> <li>3 北山エリアの開発計画について、周辺住民や広く市民の声を聴く京都市による説明会を実施すること。</li> </ol>		
陳情者			
回付委員会	まちづくり委員会		